

三重県図書館協会報 2024年3月29日発行

協会 だより

No.75

目次

ながいながい図書館の話のはなし	1
トピックス～図書館をめぐる話題から～	2
令和5年度図書館活性化推進事業のご報告	4
令和5年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館 振興事業のご報告	5
研修会のご報告	6
新館案内	8
ブックエンド	8

編集・発行 三重県図書館協会＝津市一身田上津部田 1234 三重県立図書館内 電話：(059)233-1181

ながいながい図書館の話のはなし

四日市市立図書館 ちきり英理

昭和四十八年（1973年）七月十日の開館から五〇年。当時、四日市市の職員として建設にかかわった坂倉加代子さんをお招きし、メリーゴーランド店主の増田喜昭さんを聞き手に、令和五年（2023年）七月、「ながいながい図書館の話」をしていただきました。

当時、社会教育課所属だった坂倉さんは、新しい図書館を作るにあたり、上司に力説したそうです。「これからは、『市民の図書館』を作らなければならない。貸し出しを中心にして、児童室をいい場所に！」。『市民の図書館』（日本図書館協会1970年）をちょうど読んだというタイミングでした。しかし建築が進むにつれ、本をだれが選ぶんだろう、と心配になった坂倉さんは、「わたしが図書館に行つて、本を選びます。児童室をいいものにしませう！」と、司書資格を取り、建物の完成と同時に図書館へ異動。本を読んで読んで読んでいいものだけを選び、すばらしい児童室を持った図書

館がオープンしました。そして児童室は、目指したとおり『市民の図書館』『子どもの図書館』になり、多くの人が集まりました。

当時中学生だった一人は、「司書がいて、受け入れてもらっている感じがした。ここは自分の場所だと思った」と、毎日通い、大学生だった一人は、「大学で絵本や児童文学についての課題がでるが、四日市にはその本が全部あった」。また、坂倉さんと選り抜かれた本を目当てに通った大人も多く、その一人が、新しい図書館（の児童室にいた坂倉さん）に通い続け、三年後に子どもの本専門店をオープンさせた増田喜昭さんです。

多くの人が、五〇年たつても、あのかのときの「図書館」という場所を大切に記憶してくれていて、その時間に戻ったように、話をしてくれました。

「司書が、明るい児童室に座っている。それが文化。憲法で保障された『健康で文化的な最低限度の生

活』とは、『医療、本や芸術、ごはん』で、図書館は、それを支える場所でなければならぬ」。

入れ物が老朽化しても、五〇年前の坂倉さんの「信念」と図書館に蓄積された「知」は、色褪せることはありません。むしろ、年月を重ねてさらに、輝きを増します。その「信念」と「知」を引き継いで、これからの五〇年を紡いでいく新しい図書館を作り上げる。それが、わたしたちの責務だと、思いを新たにしたい。「すばらしくてながいながい図書館の話のはなし」でした。



講演会の様子

トピックス

図書館をめぐる話題から

伊勢市電子図書館 スタート

伊勢市立伊勢図書館

西岡由実

伊勢市では、令和5年5月1日より伊勢市子どもたちの読書環境の充実を図るために伊勢市立電子図書館を試験的に開始しました。

貸出・返却の手続きが不要で利用人数の制限がない読み放題パックを採用し、300冊の児童書が読み放題になっています。

市内の公立小学校・中学校に通う児童・生徒全員にログイン用のID・パスワードを付与し、学校で配付されているタブレット端末で利用できるほか、伊勢市立図書館の利用カードを持っている伊勢市に在住・在学・在勤の利用者も利用することができます。

サービス開始の周知方法は、HPやSNS、図書館だより、館内ポス

ター、利用案内など従来の形式で行ったほか、サービス開始直後に伊勢市の公式LINEで発信されたことで普段は図書館を利用していない市民の方からも問い合わせがありLINE発信の影響を感じました。

ログイン数・閲覧数ともサービス開始月の5月が最も多く、夏休み期間には大幅に減少したことから学校での利用が大半を占めていることが分かります。利用の時間帯も午前8時から9時が特に多いことから朝読みの時間に読まれている学校が多く、読み放題パックの利点として同じ本を同時に読むことができるので、朝読や授業で活用されています。

電子図書館のサイトのトップページに掲載される特集は、伊勢市出身の作家作品を集めた「伊勢市出身の作家さん」、映像化された本を集めた「読んでよよし。見てもよし。」、小学生が大好きな怖い本を集めた「ぞく…ぞく…ぞくっ…」など様々な特集を組んでいます。



伊勢市電子図書館

か電子図書館に入っていない本の続きを求めて図書館へ足を運んでくれる子どもたちもいて、図書館の利用促進の機会になっていると感じました。続刊で所蔵のないものまでできるだけ購入をして対応しています。現段階では試験導入ということで児童書のみですが、時代の変化や幅広いニーズに対応していければと考えています。



伊勢市電子図書館

定期的に「閲覧回数の多い本」「閲覧回数のない本」も更新し、少ない本はここで日の目を見ることで読まれる回数が増えるという現象が起きています。小学生中・高学年向けのラインナップが多いため、低学年が読む本が少ないという声を受けて、低学年でも読める本や学年別向き、中学生向きの本をピックアップした特集も組みました。

また、シリーズもので序盤の巻し

三重県総合博物館との連携による「三重の餅」をテーマにした展示の開催

三重大学情報教育・研究機構

情報ライブラリーセンター

中村恭子

当センターでは、2024年1月15日から2月29日にかけて、三重県総合博物館(Mie Mu)との連携による展示「三重の餅街道〜餅から見つめる三重の暮らし」を館内で開催しました。

本学は2014年にMie Muと相互協力協定を締結し、三重の文化振興と地域づくりに寄与することを目的とした連携活動を行っています。その一環として、Mie Muが自館企画のトピック展「くらしの道具」で使用する「花びら餅」(伊賀地域のみで伝わる平たい丸餅)の模型製作に本学が協力したことが、この展示企画のきっかけでした。三重の文化の一つとして良く知られている餅をテーマにした展示を行いたいという構想をかねてから持っていたため、この機会に博物館と図書館が連携して実施できないかとMie Muにお声がけしたところ、快諾いただきま

した。それから急ピッチで準備を進め、Mie Muのトピック展と日程を揃えるかたちで開催に至りました。



展示の様子

メイン会場である1階ロビーには、令和5年にMie Muが伊賀地域で行ったお雑煮に関する調査の結果がまとめられたパネルと共に、「花びら餅」の模型を展示し、Mie Muの展示との共通性を持たせました。また、「なが餅」や「さわ餅」など、Mie Muが所蔵する餅街道沿いの

様々な店の餅菓子のレプリカを展示し、更にレプリカの脇には二次元コード付きのキャプションを置いて、それぞれの餅や店に関するweb情報にアクセスできるようにしました。2階展示コーナーでは、三重の食文化の研究を行っている本学教員の著作をはじめとした図書館蔵書を、Mie Muの学芸員の方の協力も得て選定、展示しました。

来場者からは「たぐさんの餅を、こうして比較できる機会があつて良かった」といった嬉しい声が聞かれました。一方、企画者としては、連携によって、地域に関する博物館と大学双方の研究成果を複合的に提示し広がりのある展示ができたと感じています。また、予想していなかった効果もありました。学内の国際交流部署から、留学生にも展示を紹介したいとの要望が入ったため、日本語に加えて英語版の展示パンフレットを作成したところ、とても好評でした。今回の展示が日本の外からの目にも触れることで、新たな視点から地域文化が再評価される契機となれば嬉しい限りです。

今回の展示で取り上げたのは、餅街道に伝わる餅や地域文化のごく一部です。今後、シリーズ化等によつ

て「餅」を通じた資料展示の機会を持つと共に、博物館との連携を図っていきます。



展示の様子

令和5年度

図書館活性化推進事業のご報告

令和5年度の当協会による図書館活性化推進事業では、3館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

①地域出前図書カフェ

～過疎化が進む町の読書推進活動～

みなみいせ図書室 田中由紀子

開室から十年、当室の利用状況は来室者数・貸出冊数はかろうじて右肩上がりの傾向を維持していますが、新規顧客数は年々減少の傾向にあります。その原因には、高齢者の様々な事情が考えられます。県下一高齢化率が高く、人口減少率が高い当町では、過疎化が進むとともに、老人会などコミュニティの衰退が加速し、高齢者の寄り場が消滅しつつあります。

そこで私たちは、「高齢者のご家庭に本をお届けすること」と「地域コミュニティの復活」を目指し、町内の集会所に出かける出前図書カフェを思い立ち、民生・児童委員協議

会との連携で6月より7地区で始めました。毎回運ぶ品物は、本約50冊、紙芝居、認知症のテキスト、談話カフェタイムでの飲みもの一式、必携のスピーカーなどなど。

認知症を学んだり、紙芝居や絵本の読み語りや本の紹介、歓談タイムなど、限られた時間を皆さん楽しく過ごされ、最後に本を借りられて「ありがとう、楽しかった!」と本を入れたバッグを携えて帰路に着かれる光景に接するたびに、図書室の業務では味わえない喜びと充実感を感じるとともに、民生委員さんはじめ、参加される方々のご協力で今後新しい広がりを見せていくことを実感しています。

②「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」

高田短期大学付属図書館

西尾綾

本学図書館は一般の方にも利用していただけますが、学生の利用に比べるとその利用はごくわずかです。

もう少し色々な方に知ってもらおうと思い、「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」を助成金事業として応募させていただきました。講師は当館司書の瀬古幸弘氏で、テーマは、第1回が「石牟礼道子とMINAMATA」、第2回が「平家物語・かくも愛しき武士(ものものふ)たち」、第3回が「遠藤周作・フランスへの旅」です。講座関連資料の展示も行いました。



展示の様子

講師の瀬古氏は、中学校・高校で長年国語を教えてきた経験があり、講座のテーマは主に国語の教科書に取り上げられた作家や作品の中から

選ばれています。講座では、様々な視点で作家や作品に焦点を当てた詳しい解説をお聞きいただいた後、参加者全員の方にマイクを回して発言をいただく時間をとりました。今回は22名の方にご参加をいただきました。



講座の様子

参加者の方からは、「社会的な問題を再認識した」「新たな視点で考えることができた」などのお声をいただきました。本講座を行うことでより文学に親しんでいたいただき感想を語り合える場を提供できれば、図書館を活性化する一助になるのではと改めて認識しました。

③「忍者展 本をめぐる忍びの国をめぐる旅」について

三重県立図書館 加藤晴菜

県立図書館2階の三重の文学を発信する「文学コーナー」において、三重県の代表的な文化資源であり、また観光資源である「忍者」をテーマに、県の観光部門と連携した企画展を12月に開催しました。

展示では、一般的にイメージされる「忍者の姿」はどのように創られ人々の間に広がってきたのかに着眼点を置き、忍術書や兵学書などの貴重資料、立川文庫などの近代文学からその魅力に迫りました。

また、文化資源と観光資源が融合した新たな旅として、伊賀地域の「忍者ゆかりの地」と、「観光スポット」を巡る周遊ルートを創りました。

期間中には、忍者の最新研究を行う三重大学吉丸教授による「忍者の歴史とその創作」と題した特別講演会や手裏剣づくりなどの体験イベント、1階の閲覧室と2階の展示会場を巡るクイズラリーを行い、大人から子どもまで多くの方に「忍者」に



展示の様子

触れ知ってもらえる機会としました。タイトルにあるように企画展後も周遊ルートのパンフレットとともに忍者を題材とした本を読まれ、「めぐる」頁に書かれた忍者の姿と忍者ゆかりの地に思いを馳せ、その地を「めぐる」旅へとつながる…。今後もちょうとした資料の展示に留まらず、図書館の活性化や新しい価値を生み出す企画展示を行っていききたいと思っています。

令和5年度

全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のご報告

令和5年度の当協会による全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業では、1館が助成の対象となりました。対象館から事業のご報告をいただきました。

「開館1周年記念特別イベント」図書館列車は夢をのせて進行中」

亀山市立図書館 井上香代子

令和6年1月27日、28日、新図書館開館1周年記念特別イベントを開催しました。JR亀山駅の駅長による「出発進行！」の号令と地元の園児たちによる合唱で幕を開けました。図書館を利用いただいている方々への感謝の気持ちと図書館利用のきっかけづくりを目的とした開催です。今回は「鉄道」をテーマに2月末まで、特別月間と位置付けた催しの始まりです。

特別イベントでは、トイレールの展示や運転会のほか、絵本作家によるトークイベントとキャラクターのペーパークラフトづくり、ビブリオ

バトルに鉄道トークイベント、駅前を生かした図書館を語り合うワークショップ、リニアが走るジオラマづくりなど多くのイベントを開催。人々が学び、集い、交流する場所として、また、ふと立ち寄りたくなる「居場所」として親しまれるよう、図書館ボランティア団体や市民活動団体、ご近所のみなさんなど、多くの方々にご協力をいただくことができました。

「学びの場からつながる場へ」の基本理念のもと、人と本を通して集い、新たな交流を体感していただく機会になったと思います。

図書館列車は夢をのせて今日も走ります。



研修会のご報告

第109回全国 図書館大会岩手大会

11月16日、17日に開催された、第109回全国図書館大会岩手大会には、当協会の令和5年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のうち、図書館職員の人材育成事業（研修等への参加）をご活用いただき、1館1名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた、三重県立図書館の米島まどかさんに大会の様子をご報告いただきました。

第109回全国図書館大会岩手大会に参加して

三重県立図書館 米島まどか

令和5年11月16日・17日に開催された、第109回全国図書館大会岩手大会へ参加しました。1日目に行われた記念講演「岩手発ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」は、ブラックホールとは何か、岩手県内にある天文観測所と郷土の偉人である宮沢賢治との関係性、研究者から見た

図書館といった内容でした。2日目は、「多文化サービス」「出版流通」という2つの分科会に参加しました。

前者では、図書館単独の取り組みだけでなく、大学や自治体との連携事例や国際交流事業の実施団体が日頃行っている活動を詳しく知ることができました。後者では、地方における書店の役割と図書館をテーマに、出版業界が厳しい状況にある中で、図書館と書店のあり方や連携についての議論がありました。青森県八戸市にある市営書店（八戸ブックセンター）についても報告があり、図書館とは別に書店を運営する理由（「本を『私有』して読む」という体験の促進など）やスタッフの配置、選書イベントの開催といった運営の方法についても聞くことができました。全国大会への参加を通して、図書館の外にいる方々から見た図書館というものを少しですが見る事ができましたように思えました。

図書館職員基礎講座

比較的经验の浅い職員向けの研修である基礎講座を、9月20日に津市の三重県生涯学習センターで開催

しました。「レファレンスサービスの基礎について」をテーマに、福井県立図書館の井藤久美氏を講師にお招きしました。この研修には35名の方にご参加いただき、その中から桑名市立中央図書館の鈴木貴哉さんにご報告いただきました。

図書館職員基礎講座に参加して

桑名市立中央図書館 鈴木貴哉

本講座のテーマは「レファレンスサービスの基礎について」ということで、図書館が市民に提供するサービスの柱の一つであるレファレンスと利用者対応について、講師の方の実例等を交えて学習させていただきました。

当市でも、研修の中であったように、そもそもレファレンスサービス自体を知らない利用者に対し、広く周知していくことを、いかにしていくかが課題であり、福井県立図書館が行った「データベースの作成」と「おぼえ違いタイトル集の公式サイトアップ」については大いに参考になりました。

また実践として、利用者の間違った情報を基に、著作物を探せるかに

ついては、実際にやってみると漫然と検索するだけでは、目的のものにはたどり着くことができない難しさ、職員の知識、発想の転換等、いかに柔軟な対応ができるかを学ぶことができました。



研修の様子

今日において、電子図書の普及や生成AIの進歩等、図書館を取り巻く状況は日々めまぐるしく変化しています。その中で、利用者に対し、質の高いサービスを提供していくことを、今回の研修を通して学んだことを活かし、実践していきたいと思

います。併せて今後もこういった研修に積極的に参加し、他の職員にフイードバックしていきたいです。

図書館職員専門講座

ある程度の経験年数を経た職員向けの研修である専門講座を、1月26日に津市の三重県文化会館で開催しました。「チャットボットの機能と図書館での活用について」をテーマに、東京都立中央図書館の加藤里絵氏と三重大学情報教育・研究機構情報ライブラリーセンターの花原稔氏、富士通Japan株式会社鈴木祐介氏を講師にお招きしました。今回の研修は日本図書館協会地方講習会に相当するもので、東海北陸地域の図書館職員の方にもご参加いただきました。この研修には、29名にご参加をいただき、その中から、ふるさと多度文学館の吉田歩さんにご報告をいただきました。

図書館職員専門講座に参加して

ふるさと多度文学館 吉田歩

チャットボットが図書館でどう活用できるの？開催案内を見た瞬間、

そんな疑問が湧き、ぜひ受講したいと思いました。

正直、図書館におけるチャットボットの有用性をあまり感じていませんでしたが、その導入経緯を拝聴し、利用者向けサービスの向上に対する熱い思いを強く感じるとともに、導入後のチャットボットの利用率が思っていたよりもかなり高いことに驚きを禁じ得ませんでした。

受講後に感じたことは、チャットボットの導入は、利用者向けサービス向上のための有効なツールの一つとなること。ただし、FAQの作成ひとつとっても、利用者が知りたいことを利用者が聞くであろう文言で表現したり、回答により即した質問を作成したりするなど、利用者視点に立つたきめ細かな準備と高い意識レベルでの維持管理がなにより重要であると感じました。

最後に、DX化は、多くの図書館において大きな課題の一つとなっているのではないのでしょうか。経費的観点からの課題はあるものの、書架にアンテナを張り、ICタグの読み込みにより瞬時にどこに書籍があるのかわかるようにする、ロボットを館内巡回させることで常に蔵書点検

をしているような最新状態を保つことが出来るようになるなど、これからはますます夢のある分野であると感じました。

視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を、2月16日に実施しました。守山市立図書館を視察したこの研修には、24名にご参加いただきました。参加された方の中から、三重県立図書館の田邊涼太さんにご報告をいただきました。

視察研修に参加して

三重県立図書館 田邊涼太

2月16日に守山市立図書館を見学させていただきました。

守山市立図書館は滋賀県にある市立図書館で、平成30年に新しく開館したその建物は、有名な建築家の隈研吾氏によって設計されたものです。木材をふんだんに使った建物は直線的でありながら柔らかさや明るさを備えていて、また新しい建物ではありませんが街の風景に溶け込んでいました。

「本と人が出会い、人と人がつながる知の広場」をコンセプトにしたこの図書館は、街の人たちを図書館に取り込むことに力を注いでいます。その事は、様々な人が使いやすいよう考えられている設備や、図書館サポート隊など一般の利用者を巻き込んだ図書館の取組からも強く感じることができました。

立地や館種の違いなどもありますので、全てを真似するという事はできませんが、周りの人たちを図書館に取り込み、それを継続させていく様々な取組は当館でもぜひ参考にしていきたいと思えました。



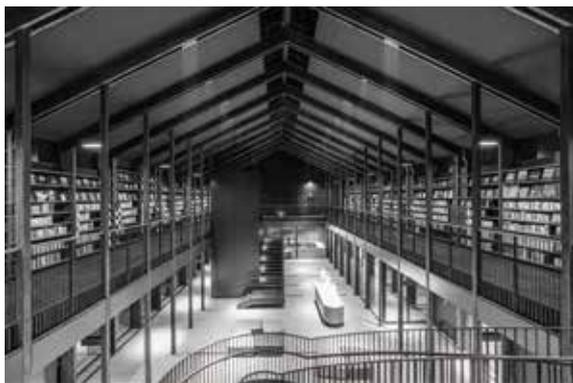
図書館の外観

新館 案内



伊賀市上野図書館 いがまち図書室

伊賀市上野図書館いがまち図書室は、伊賀市の北東部に位置する図書室です。
令和5年11月6日、JR新堂駅前に移転開館しました。



いがまち図書室内観

いがまち図書室の入る「BOOK MARK STORAGE」の建物は、DMG森精機株式会社により建設され、自然豊かな伊賀の風景になじむように建物の壁は地元の杉の木を使用して作られ、焼き杉という工法により味わい深い風合いを醸し出しています。

屋根裏の書庫をイメージして作られた建物の2階に本を揃えており、いがまち図書室の本と、DMG森精機株式会社蔵の蔵書／DMG MORI 図書の本、それぞれ約1万冊の合計約2万冊を所蔵しています。いがまち図書室の本は、郷土関係の資料も含め、貸出しできます。また大型絵本を多く所蔵しており、個人での利用に加え、ボランティアによる学校や図書館での読み聞かせ等にもご利用いただけます。DMG MORI 図書の本は、工作機械に関する図書をはじめ、芸術・ワイン・音楽・

ブックエンド

『さかなのなみだ』

さかなクン／著
二見書房



ユマニテク短期大学図書館
長谷川あゆみ

さかなの世界にもいじめがあります。それまで仲良く泳いでいた魚ですが、広い海から小さな水槽に入れられた途端、いじめが始まります。いじめられた魚を別の水槽に移しても、また新たな魚がいじめられます。それは人間社会でも同じことが言えるようです。

さかなクンは中学時代のエピソードやその魚の様子から感じたことを丁寧に伝えてくれます。さかなクンからのメッセージ、ぜひ子どもだけでなく大人にも読んでほしい1冊です。

スポーツなどの分野の専門書を多く取り揃えております。「BOOK MARK STORAGE」では、本に出会える図書館をコンセプトにしており、落ち着いた雰囲気の中でじっくりと読書をお楽しみいただくことができます。

また、1階にはカフェとギャラリーが併設されており、開放的で、ゆつくりと過ごしていただける居心地の良い空間となっています。

館内で読書やカフェを楽しんだり、アート作品を眺めたり、さまざまな楽しみ方をしていただくことができます。

駅からも近く、より便利になった



いがまち図書室内観